



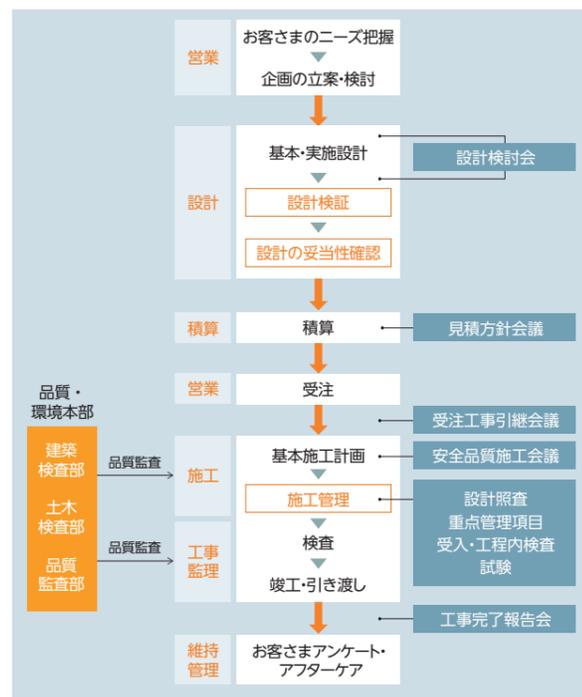
お客さま満足のために

社会的基盤の形成や維持といった建設業の基本的役割と責任を十分に果たすとともに、多様化するお客さまのご要望にお応えするべく、品質の向上を目指しています。

1996年より品質マネジメントシステム(ISO9001認証取得)を構築・運用し、下図のような品質マネジメントプロセスで取り組んでいます。そして、お客さまの求める品質をより的確に実現するため、経営者がシステム全体の運用状況を定期的に点検し、継続的な改善に努めています。また、「品質・環境・物損事故報告制度」を設け、施工中・施工後に事故が起きた場合には、速やかに問題を解決し、再発防止策を水平展開する体制を整えています。

アフターケアについては、情報の一元管理、全店で共有できるデータベース「お客さま対応システム」を構築し、本社・支店が連携して迅速に対応できる体制を整えています。不具合情報は研修などの教育にも反映し、品質の向上と事故の未然防止に役立っています。

品質マネジメントプロセス



さらなる品質向上を目指して

お客さま満足のためさらなる品質向上を目指して、2022年度より本社部門に「品質監理部」を新設しました。

品質監理部では、建築・土木の施工管理および工事監理に対して独立した立場で品質監査を実施し、フジタ品質の担保ならびに全店の品質監理業務を統括します。これまで各事業部に設けられていた、品質検査および工事監理機能は残しつつ、品質監理部が部門横断的に全社の品質監理体制を監視することで、これまで以上の品質保証体制の構築、工事監理の強化を実現します。

2023年度には、これまで建築本部・土木本部に設置していた「検査部」を「品質・環境本部」へ移管し、業務執行部門から独立した品質検査体制を強化しました。

品質検査水準の統一化

若手社員やベテラン社員にかかわらず全員が一定水準で施工中の建物の品質検査が実施できるよう、当社では「施工品質評価基準」を設けてすべての作業所に適用しています。

2023年度 品質向上に関する重点取り組み事項

- 品質確保のためのフロントローディングを実施
- 施工プロセスを遵守した品質管理の徹底
- 真因分析と再発防止の組織風土を醸成
- DXによる品質管理手法へのチャレンジ

フジタのVE

1968年に日本の建設業で初となるVEを導入して以来、お客さまにご提供する建築物・サービスの価値向上を目指し、VE活動を展開しています。IoT、DX、SDGs、環境などを意識し、変革の時代においてVE検討を業務フローに組み込み付加価値提案と生産性向上を図っています。

VE(Value Engineering)とは

お客さまが求めている働き(機能)と、それを手に入れるために必要な資源との関係性を評価し、最適な方法を提案することにより、お客さまに高い満足をご提供するエンジニアリング手法です。VEが追求する価値は、機能と資源の関係で表され、VEは価値を向上させるとともに、価値を創造します。

建設DXへの取り組み

これまでフジタは「建設ライフサイクル全体のプロセスがデジタル化され、あらゆるものが同時につながり、効率化され、これをもとに新たな価値を提供していく」という建設業の将来像を描き、実現に向けたさまざまな取り組みを進めてきました。

フジタ5ヵ年計画(2022~2026年度)ではそれらの取り組みをさらに加速するため、DX推進を柱の一つに掲げました。

会社全体のDX推進を統括する「DX戦略部」を舵取り役として、業務プロセスの変革やインフラ整備、人材教育・意識変革までを統合的に推進しています。

BIM・CIMの活用

当社はBIM・CIMをDX推進の中核と定め、すでに国内建築におけるすべての設計施工案件でBIMの導入を完了しています。2022年度に設置した「BIM推進統括部」を軸として、建設プロセス全体でのBIMの活用を一体的に推進しており、顧客提案から施工、ファシリティマネジメントまで一貫通貫で新たな価値の創出と提供を目指します。また

2023年度からは当社独自のBIM認定制度を整備し、社内のBIM人材の育成にも注力していきます。

次世代作業所運営へのチャレンジ

作業所における働き方改革および作業所IoTの徹底活用を推進し、作業所の時短をさらに加速させるため、2023年度に「作業所DX推進部」を「作業所サポート推進部」に改称し、作業所の支援体制を強化しました。また、技術センターにおいては「生産改革研究部」を「DX推進研究部」に改称し、DX戦略との連携を明確化し、他社とのアライアンスを積極的に活用しながら技術開発に取り組んでいます。

フジタは2021年に完成した「大和ハウスグループ 未来価値共創センター コトクリエ」や2022年に完成した当社の研修センター宿泊施設「志」の施工においてDXを駆使した次世代作業所運営に挑戦しました。2023年度はそのノウハウを発展させて複数のパイロットプロジェクトを稼働しています。今後もデータやノウハウの蓄積を加速させ、全作業所への展開を目指します。

Topics

施工DX PR動画を公開

フジタの作業所において、現在導入しているソリューションの一部をご紹介します動画を公開しました。常に最先端の技術を取り入れ、進化していくフジタの施工現場の一端を知ることができる動画となっています。



動画ライブラリー
<https://www.fujita.co.jp/movie/>



Topics

「OpenSpace」の活用

当社では、360度カメラで撮影した画像・動画をAI活用により図面上の位置に紐付けて記録できる現場管理ツール「OpenSpace」を導入しています。

国内外の数多くの作業所における活用が評価され、OpenSpace社よりアジア太平洋地区の「Company With the Most Capture Minutes (もっとも撮影時間が長い会社)」アワードを受賞しました。DX推進に大きな効果をもたらすICTツールとして、今後も活用方法の検証を進めていきます。



OpenSpace社 日本部門アワードにおいてMVP賞を受賞